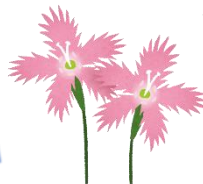




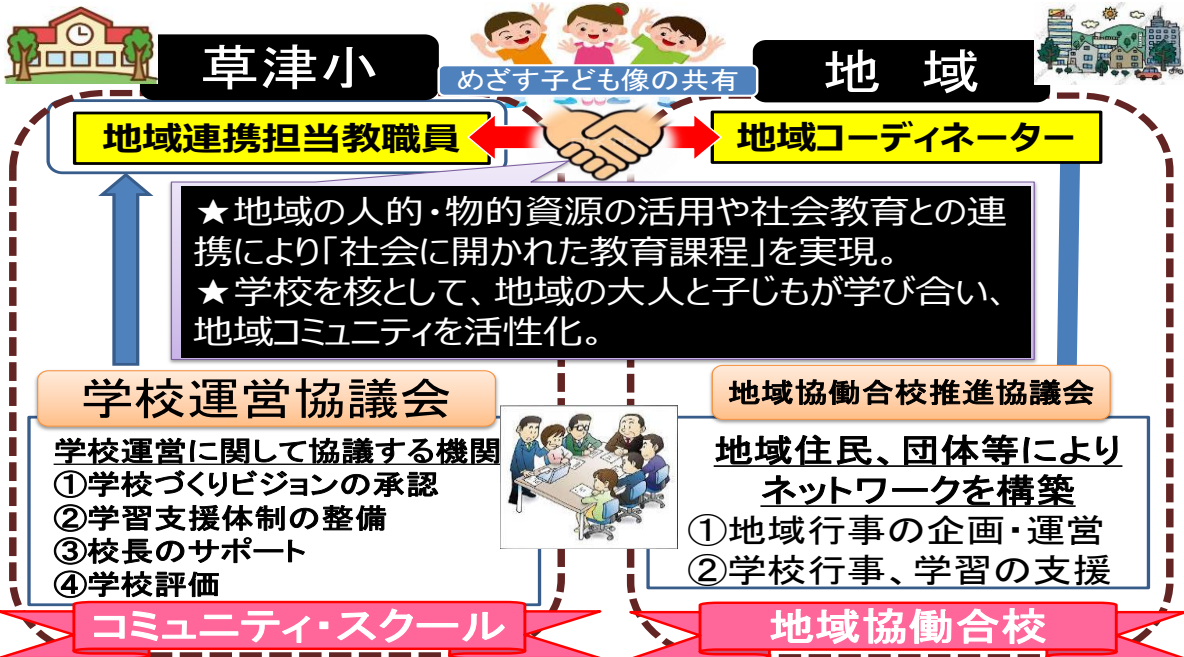
なでしこ



令和4年(2022年)6月15日

No. 8

「地域とともに歩む 草津小学校」



校長 中村 真理子

環境ボランティアの方々、年間を通して前庭のプランターの花のお世話をしてくださっています。今は夏に楽しめるマリーゴールドやサルビアの花の植え替えの準備をさせていただいているところです。環境ボランティアの方々には、この他にも、校内にある田の整備や米作りなど、たくさんの学習を支えていただいています。

また、図書ボランティアの方々にも子どもたちの読書活動を支えていただいています。読み聞かせの活動、貸出業務補助など、多くの方々のお力添えにより、図書環境が整えられています。本に親しむ機会を増やすためにも大変ありがたいサポート体制です。

このような保護者・地域の方々の支えに対して学校ができることは、本校の子どもたちが元気に学校生活を送る姿を見せることだと考えています。学校への温かいご支援、本当にありがとうございます。

さて、本校は、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入しています。コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆様と一緒に知恵を出し合い、学校運営に参画し、協働して子どもたちの豊かな成長を支える仕組みです。本校は、「学校運営協議会」が中心となって、「地域とともに歩む学校」をめざしています。学校運営協議会の委員は、PTAや地域の皆さんの代表と、本校教職員を含めて10名によって構成されています。任期は1年で、草津市教育委員会が任命します。今年度、お世話になります委員の皆様方を、裏面に紹介させていただきました。

子どもたちにとって小学校生活を送る6年間は、地域や地域の皆様と関わって育つ大切な時期です。本校では、「学校運営協議会」だけでなく、上図のように保護者や地域の皆様との連携を強め、今年度も学校を運営していきます。先日(6月2日)、第1回「学校運営協議会」を開催しました。約2時間の開催でしたが、学校経営方針や、コロナ対策を図りながらの最近の教育活動等について説明と協議をしました。なお、第1回目「学校運営協議会 議事概要」につきましては、後日学校ホームページに掲載しますので、ぜひご覧ください。



【草津小ホームページを毎日更新し、子どもたちの活動の様子を掲載しています。ぜひご覧ください。】

令和4年度 草津小「学校運営協議会委員」の紹介

	お名前	役職
1.委員長	湯浅 敦さん	草津市青少年育成市民会議 副会長
2.副委員長	吉川 真実さん	草津小学校 PTA 会長
3.委員	中島 登さん	草津学区青少年育成区民会議 会長
4.委員	森 和美さん	草津まちづくりセンター長
5.委員	戸高 秀人さん	ゆうネットくさつサポーターの会 代表 (草津小学校 環境ボランティア)
6.委員	竹谷 利子さん	草津学区民生委員 主任児童委員
7.委員	辻 圭子さん	草津小学校 地域コーディネーター
8.委員	高井 育夫	草津小学校創立 150 周年事業実行委員会 委員長 (前 草津小学校 校長)
9.委員	中村 真理子	草津小学校 校長
10.委員	丹羽 浩之	草津小学校 教頭

委員の皆様、今年度1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

「草津小学校 創立 150 周年記念事業」について

第1回「学校運営協議会」ならびに「PTA 常任委員会」等で協議を重ねていただき、今のところは、次のような形で事業の計画を進めています。詳細は、現段階ではまだ決まっておきませんので、今後、詳細が決まり次第お知らせします。

【日時・内容の予定】 11月10日(木)5,6校時 ➡ 手作りロケットの制作

11日(金)3,4校時 ➡ 講演 植松電機社長 植松 努 氏
「ロケット開発を実現した原動力とは」

5,6校時 ➡ 手作りロケットの打ち上げ

【植松 努 氏 プロフィール】

株式会社 植松電機の代表取締役であり、宇宙開発に尽力されている方です。自分の可能性、相手の可能性を大切にしていこうと、子どもたちに対して、とてもわかりやすい言葉で伝えてくださる予定です。昨年度の本校卒業生も植松氏のお話を DVD で視聴しました。今年は、ご本人が来校して、子どもたちにお話をしてくださる予定です。

『子どもの心に 寄り添って』

「子どもに寄り添う」って？

このコーナーのタイトルにもなっていますが、「ぜひお子さんに寄り添ってください。」このような言葉を聞かれたことがある方も多いことでしょう。教育や発達の専門家の多くが言っていることです。この言葉を聞いて「そうか、よし、やってみよう」と思ったものの、具体的に「何をしたらよいかわからない」という声も聞かれます。「寄り添う」には、本来「体をぴったりとそばに寄せる」という意味があります。でも、四六時中ずっと子どもの体にぴったり身を寄せているのは、ちょっと違う気がしますよね。子どものそばにいて、子どもの意に沿うように何でもやってあげるのも違いますよね。「子どもに寄り添う」というのは、同じものに対して同じように感情をもつこと、同じ感情をもつことをお互いに分かり合えることだと思っています。

【具体的には…】

- ・テレビでおもしろい番組を見ていて、子どもと大人がいっしょに笑う。
- ・子どものはまっているもの、好きなもの、得意なものを、いっしょに楽しむ。会話をする。
- ・例えば、夜、花火をしていて、子どもが「きれいだね」と言ったら、大人も「そうだね。きれいだね」と言う。
- ・子どもといっしょに料理を作って、お互いに「おいしいねえ」と言いながら食事をする。



このようなことを、気づいた時に、チャンスがあった時でよいので、やってみていただけるとよいのではないのでしょうか。いつもいつも「子どもに寄り添う」ことを意識しすぎると、大人が疲れてしまい、子どもへの関わり方がぎこちなくなってしまう。繰り返しになりますが、「気づいたときに、チャンスがあった時に」、で大丈夫です。

【草津小ホームページを毎日更新し、子どもたちの活動の様子を掲載しています。ぜひご覧ください。】